

2022 年度（令和 4 年度）広瀬学園小中一貫教育基本方針

1 めざす子ども像

- ・自己（自立）・・夢や目標に向かって見通しをもち、粘り強く行動できる子ども
- ・他者（共生）・・友達の良さを認め、課題解決に向けて共に取り組む子ども

2 児童生徒の現状

【知】

広瀬学園小学校・中学校では、指定学区変更や地元の児童養護施設に入所する児童生徒がほとんどである。逆に地元の児童生徒の割合は減少しており、空き家バンクに居住している世帯が若干という状況である。また、発達障害や不登校などにより、他者とのコミュニケーションに課題があり、学力にも課題をもつ児童生徒が増加している。

そのため、広瀬学園小学校・中学校では、特別支援教育の視点を活かした授業改善や基礎学力の定着を目指して放課後を活用した学習や個に応じた指導を推進に取り組んできた。その結果、広瀬学園中学校において、全国学力学習状況調査では県平均に達することはできなかったが、伸びの調査においては、中学校入学後、個々の生徒の学力の向上が見られ、生徒の主体的な学びを推進している。

広瀬学園小学校は、昨年度から完全単式学級となり、今まで培ってきた学習リーダーを中心とした見守り型授業を定着させ、児童の主体的な学びを推進している。

【徳】

児童生徒の心的状況は学習方法や意欲について課題が大きい。小中学生ともに、友人関係や家庭状況に対する不安をもつ生徒が多い傾向がある。小中合同行事の取組や昨年度は実施できなかった敬老会等の地域行事へ参加することで、児童生徒の自己有用感が徐々に高まっている。また、中学生はリーダーとしての自覚が向上してきている。

【体】

日常的な運動経験の欠如や新体力テストの結果より、ほぼすべての項目が県平均を下回っている児童生徒が多い。体育の授業では主運動に関連した準備運動や補強運動を他者と協働して行うなど、課題克服を図ってきた。持久力の向上では、12月に小中合同駅伝・ロードレース大会を開催し児童生徒の体力向上に取り組んだ。また、中学校の部活動を充実させることで、生徒の運動能力や競技力の向上につながっている。

3 課題

（1）学力に関する課題

- ① 放課後学習や授業研究により学力の定着状況は改善傾向にあるが、個々の児童・生徒の学力差が大きく、学力の定着状況には依然課題がある。個々の児童生徒の課題を明確にした小中合同研修を実施し、小中9年間を通した効果的な取組が必要である。
- ② 発達障害をもつ児童・生徒の割合が高いため、特別支援教育の視点による授業づくりについて研修・研究が必要である。

(2) 小中9年間を見通したカリキュラムに関する課題

広瀬タイムの時間及び道徳の時間の9年間を見通した系統的な学習となるよう、小中で調整しており、中1段階で小学生と一緒に広瀬タイムとして履修する。他中学校区より広瀬学園中学校へ入学する生徒も多く、そのため、広瀬学園小学校出身生徒にとっては負担が大きく、内容等の工夫が必要である。

(3) 自己表現力及び他者とのコミュニケーションについての課題

- ① 発表する機会を増やし、自己表現する力の育成や達成感の得られるものにする。
- ② 他者との言語によるコミュニケーション力の向上が必要である。

(4) 関係機関との連携についての課題

児童養護施設から通学する児童生徒の割合が高く、児童養護施設や子ども家庭センター等関係機関との日常的な連携が必要である。

4 広瀬学園校区における小中一貫教育のねらい

(1) 中1ギャップの克服

小学校から中学校への環境の激変を緩和することにより、ストレスを解消し中学校生活への円滑な適応を図る。

(2) 異年齢交流による自己有用感の向上や人間関係力の向上

小中合同行事等を通して、9年間を見通した小中学生の計画的・継続的な交流を実施し、児童生徒の自己肯定感・自己有用感の向上や人間関係力の育成を図る。

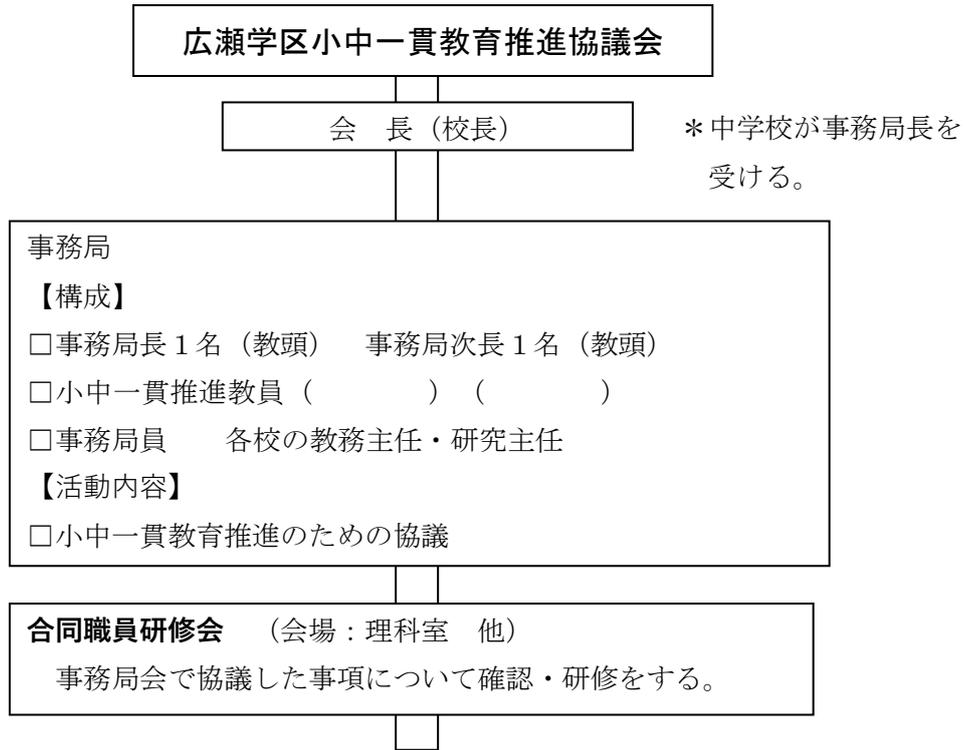
(3) 基礎的・基本的な学力の定着

特別な支援を必要とする児童生徒について、小中学校の教員が情報交換を密にし、合同で授業研究に取り組むことで、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導により基礎的・基本的な学力の定着を図る。

(4) 広瀬地域と関わり、地域を誇りに思う心情の育成

地域とともに行う行事や地域学習を通して、自分の在り方を見つめ、地域を誇りに思う心を育てる。

5 小中一貫教育推進のための組織



《各取組容担当者》

	取 組 内 容	小 学 校	中 学 校
小中合同行事	体育発表会	()・()	()・()
	駅伝ロードレース大会	()・()	()・()
	文化祭	()・()	()・()

《教育内容交流研修グループ》

教育内容	小 学 校	中 学 校
教育研究	教務主任 (), 研究主任 ()	教務主任 (), 研究主任 ()
生徒指導 (自主活動)	生徒指導主事 () 児童会担当 ()	生徒指導主事 () 生徒会担当 ()
体力向上 健康教育	体力向上担当 () 養護教諭 ()	体力向上担当 () 保健主事 () 養護教諭 ()
学校経営	校長 (), 教頭 ()	校長 (), 教頭 ()

6 具体的な取組について

(1) 小中で共通した特別支援教育の視点に基づく授業づくり

広島大学大学院 湯澤正通教授より ワーキングメモリの小さい子どもに対する学習支援

【授業の構成】

① 情報の構造化と多重符号化

- ⇒ ・学習活動を明確にする（子どもを主語にして、「～する」「～できる」と表現する）
「今日こんな勉強をするんだ」「やってみたい」安心感へ（長期記憶の利用）
最後に授業の振り返りとまとめ
- ・情報の最適化（スモールステップ） 授業を短いユニットに分ける
 - ・注意のコントロール（自己制御） 学習の流れを明示，学習の自己評価

② 学習形態，学習環境，学習のルール

- ⇒ ・音声情報，視空間情報，触覚などの他感覚を利用する。
- ・作業の手順を図式化
 - ・漢字や九九が分からないときに参考にするカードを準備
 - ・考える時間や問題解決の時間を十分取る。
 - ・課題の量を子どもに応じて調整
 - ・ペア，グループでの活動
 - ・学習のルール（話すとき，聞くときの姿勢など）をあらかじめ決める。

③ 指示の出し方

- ⇒ ・大切な指示は文字で出す。
- ・「教科書の〇〇ページ」を板書する。
 - ・短い言葉で簡潔に指示する。
 - ・注目させてから指示を出す。
 - ・全体指示後，必要な子どもに個別に指示を出す。

④ 教材・教具

- ⇒ ・絵やイラストなど視空間的情報を使い説明する。
- ・考え方が分かるワークシートを準備する。
 - ・必要な教材以外は机の中に片付けさせる。

⑤ 板書の工夫とノートの指導

- ⇒ ・発音の似ている言葉や聞き誤りやすい言葉を板書する。
- ・板書の仕方やノートの取り方をパターン化する。
 - ・話を聞く時と書く時間を分ける。
 - ・色チョークや色ペンを効果的に用いる。

⑥ **子どもの発表, 作文**

- ⇒ ・子どもの発表後, 教師がそのポイントを整理する。
・発表の仕方のルールを決めて, カードなどに示す。
・作文の手がかりを書いたカードを用意する。

※「ねらい」→「まとめ」→「ふりかえり」が整合している授業づくりの徹底

(2) 子どもの言葉で問いを創る授業づくり

【導入 (5分)】 動機づけ・問い創りを行う	
①	導入・ルール確認
②	不思議のタネを示す
③	問いを創る (1～2分)
④	問いを班で紹介し合う (2～3分)
⑤	創った問いを机の中にしまう
【展開 (35～40分)】 本時の授業を行う	
⑥	いつものように授業を行う
【まとめ (5分) 授業のまとめ・振り返り】	
⑦	自分の問いが解決したか, 振り返る

(3) 授業改善を充実させるための研究協議会の工夫

① 個々の児童生徒の学びの状態に着目した研究協議会

授業の中で個々の児童生徒の様子を観察し, 有効な教材・発問・支援などを検証していく。

② 小中教職員が児童生徒の状況を共通理解する研究協議会

小中教職員が相互に児童生徒の様子を観察することで, 児童生徒の状況を理解し小中継続した有効な指導法について研修していく。

(4) 小中合同行事の充実

① 小中合同行事の意義について確認

小中合同行事の計画段階から合同で行うことの意義と行事を通して付けたい力について, 全職員が確認して取組む。

② 小中合同行事のカリキュラム作成

小中合同行事を通して各学年で付けたい力についてカリキュラムを作成する。

(5) 兼務・日課の共通化

理科, 音楽, 保体は中学校教員が兼務で指導

(6) 自分の在り方を見つめ, 地域を誇りに思う心の育成

地域との合同行事を通して, 地域の人とふれあう中で学校や児童生徒を支援している地域を誇りに思う心情を育てる。

7 小中一貫教育推進に係る実施計画

時 期	具体の取組み	
4 月	○小中合同研修（14 日）	組織体制 取組内容 スケジュール 確認 カリキュラムの作成に向けて
5 月	○広瀬学区民運動会（22 日）	（中学校ブロック合同研修 20 日）
6 月	○第 1 回小中合同授業研究（中学校授業提案）23 日 （ 教諭） 指導・助言 広島大学大学院 湯澤正通教授	
7 月	○小中合同研修（25 日）	（中学校ブロック研修 14 日） 1 学期の取組の交流 小中合同文化祭に向けて
8 月		広瀬夏祭り（小中児童生徒出演） 14 日
9 月	○小中合同運動文化発表会（10 日）	（中学校ブロック研修 15 日） 敬老会（小中児童生徒出演）18 日
10 月	○小中合同研修（20 日）	広瀬タイムについて
11 月	○小中合同文化祭（1 日～7 日）	（中学校ブロック研修 18 日）
12 月	○第 2 回小中合同授業研究（小学校授業提案）1 日 （ 教諭） ○小中合同駅伝・ロードレース大会 大鍋の会 （9 日） ○小中合同研修（15 日）	2 学期の取組の交流
1 月	○とんど（10 日） ○6 年生中学校授業見学（31 日）	
2 月	○第 3 回小中合同授業研究（小学校授業提案）2 日 （ 教諭） 指導・助言 広島大学大学院 湯澤正通教授 ○事務局会議（21 日）	1 年間の取組について交流 校区授業研のまとめ 次年度に向けての計画・カリキュ ラムの作成